

大連市の行政区画のひとつである旅順（旅順口区）については従来、軍事上の理由から外国人の立ち入りが制限されてきました。しかし、その対外開放が中央政府により批准されたとの情報があります。（今後、外国人の往来も、一部軍事禁區を除き、可能となる筈ですが、行政各部門等で目下調整が行われている模様であり、具体的な解禁内容は現状不明のため、訪問に当たっては当面、旅行社等にご確認願います。その他の詳細は、脚注をご参照下さい。）以下では、旅順の歴史と産業等を中心に記すことと致します。

1. 旅順の歴史

現在の大連市内から約45キロ西にある旅順はかつては小さな漁村でしたが、1878年に清の北洋艦隊の根拠地となり町が出来始めました。日清・日露戦争、第2次世界大戦を経て、1945年にソ連軍の管理下に入り、1955年に中華人民共和国に返還されました。なお、かつては大連と旅順を含む地域を「旅大（リュイター）市」と称していましたが、1981年からは大連市旅順口区となり、現在に至っています。

二百三高地等の旧跡があり、司馬遼太郎氏の小説やドラマの舞台として日本人観光客にも人気のあるスポットです。

2. 旅順の産業と開発構想

旅順は古くからの農業・漁業に加え、現在以下の大規模プロジェクトに代表される造船や鉄道車両等の重工業が成長中です。

- (1) 中遠造船工程（中国系COSCOと川崎造船の合併であり、100億人民元の投資で造船基地建設のもの）：受注は既に相当量確保とのことであり、現在の経済危機の影響はないとのこと。
- (2) 北車集団機車による200億人民元の投資：地下鉄や高速鉄道の列車製造は中国の鉄道網整備計画の恩恵を直接受けるもの。

また、他では機械・自動車部品・ソフトウェア産業を盛んにするとの計画がある様子ですが、対外開放が遅れていたこともあり、外資企業数は230社、うち日系企業は76社にとどまっています。今後は以下の工業園区・開発区域を整備すること。

- ① 西北部臨港新城（従来の港湾と双島湾総合物流区からなり、物流・機械産業誘致中）
- ② 旅行服務区
- ③ 知識経済区（ハイテク区、大学城、中国科学院旅順科技創新園他）
- ④ 現代農業区
- ⑤ 自然保護区（老鉄山、蛇島、鳥島）

現在でも27万人程度の人口を擁していますが、大連市内にあった大学の多くが移転してきたことで、若者の姿も多く見られるようになり、今後のますますの発展が期待されることです。

以 上

*脚注 在瀋陽日本国総領事館大連出張駐在官事務所によれば、2009年5月下旬時点で旅順口区は未だ完全には開放されていないことが判明しており、以下の点についてご注意願います。（以下、領事館情報）

1. 外国人に目下、開放されている場所は二百三高地と水師營の2箇所のみであり、「東鶏冠山」「旅順博物館」「白玉塔」等への入域は不可。
2. 既に開放されている2箇所についても、個人観光は避け旅行会社等を通じて団体で観光すること。この際、必ず旅順北路（南路及び中路は未開放）を利用すること。
3. 違反者に対しては、500元以下の罰金又は3～10日の行政拘留、違反者に重大な過失がある場合は国外退去処分退去処分もある。